

宮城県産 牡蠣

仙台こけし

仙台名物 牛タン

第6回日本アレルギー学会 東北地方会

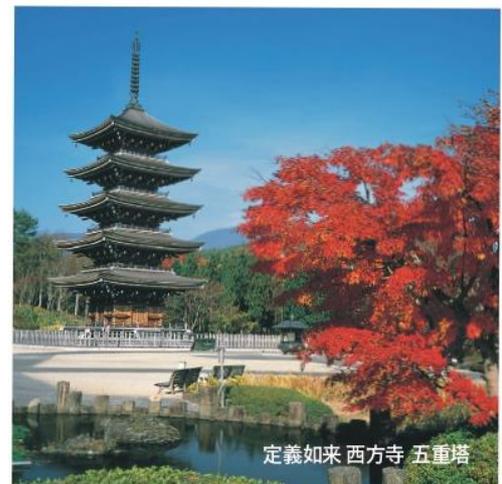
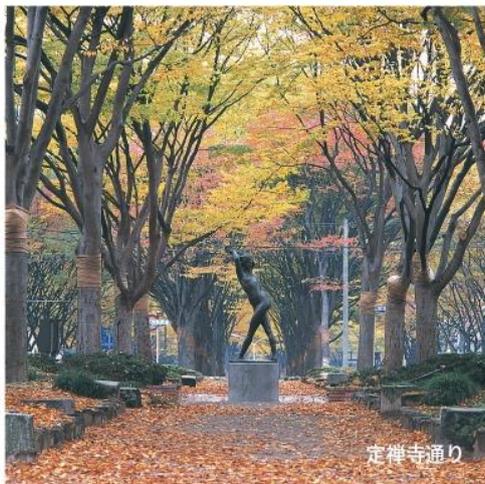
東北地方会ホームページ ▶ <https://www.tohoku-kyoritz.jp/allergy6/>

会期 令和6年11月24日(日)

場所 TKPガーデンシティ仙台 (仙台駅前 AER21階)

会長 植木 重治 秋田大学大学院医学系研究科 総合診療・検査診断学講座 教授

事務局：秋田大学大学院医学系研究科 総合診療・検査診断学講座 TEL：018-884-6428



日本アレルギー学会東北支部主催

第6回日本アレルギー学会東北地方会

プログラム・抄録集

会 長

秋田大学大学院医学系研究科 総合診療・検査診断学講座／教授

植木 重治

■一般演題	セッション I	10時35分～11時25分
	セッション II	11時25分～12時15分
	セッション III	13時55分～14時45分
■教育講演	教育講演 I	10時00分～10時30分
	教育講演 II	13時25分～13時55分
	教育講演 III	15時45分～16時15分
■教育セミナー	教育セミナー 1	9時05分～10時00分
	教育セミナー 2	12時25分～13時20分
	教育セミナー 3	14時50分～15時45分

■日 時：2024年11月24日（日） 9時00分～16時30分

■会 場：TKPガーデンシティ仙台 AER21階 ホール21A
〒980-6130 宮城県仙台市青葉区中央1-3-1

■参加費：1,000円（当日受付でお支払ください）※初期研修医、学生は無料

地方会事務局

秋田大学大学院医学系研究科 総合診療・検査診断学講座 内

第6回日本アレルギー学会東北地方会 事務局

〒010-8543 秋田県秋田市本道1丁目1番1号

TEL/ FAX：018-884-6428

E-mail：gpcenter@jimu.akita-u.ac.jp

■ 演者の方へのお知らせ

■ 一般演題発表について

1. 一般演題発表時間 6分 討論時間 2分
口演中は「緑色ランプ」が点灯、1分前に「黄色ランプ」、終了時に「赤色ランプ」が点滅します。時間厳守をお願いいたします。
2. 発表はコンピュータープレゼンテーションで下記の条件でご準備をお願いします。
 - 1) 発表用データは、発表の30分前までにPC受付にお持ちください。
 - 2) Windowsでは文字化け防止のため、次のフォントのご使用をお願いします。
【日本語】MSゴシック、MS明朝、MSPゴシック、MSP明朝
【英語】Century、Century Gothic、Arial、Times New Roman、Symbol
※動画、アニメーション、音声の使用はお断りします。

USBメモリによるデータ受付について

- ・学会で用意している発表用PCはWindows10となります。
- ・プレゼンテーションソフトはMicrosoft PowerPointとなります。
- ・円滑な進行のため、発表者ツールの使用はご遠慮ください。

PCをお持ち込みされる場合について

- ・Macintoshについては、各自PCの持ち込みといたします。
- ・電源アダプターおよびHDMI変換ケーブルも忘れずにお持ちください。
- ・ウイルス対策は事前に十分に行っていただけますようお願いいたします。
- ・スクリーンセーバーならびに省電力設定は予め解除をお願いいたします。
- ・会場に用意しているプロジェクターと接続できない場合に備え、バックアップ用のデータをご持参ください。

■利益相反（COI）の開示について

1. 筆頭発表者はスライドの最初（または演題・発表者など紹介スライドの次など）に、本会の演題発表に関連するCOI状態の開示をお願いいたします。

申告様式についてはホームページよりダウンロードが可能です。

※詳細は日本アレルギー学会ホームページ内（下記URL）「利益相反（COI）指針」をご覧ください。

https://www.jsaweb.jp/modules/about/index.php?content_id=69

座長の方へのお知らせ

■発表時間について

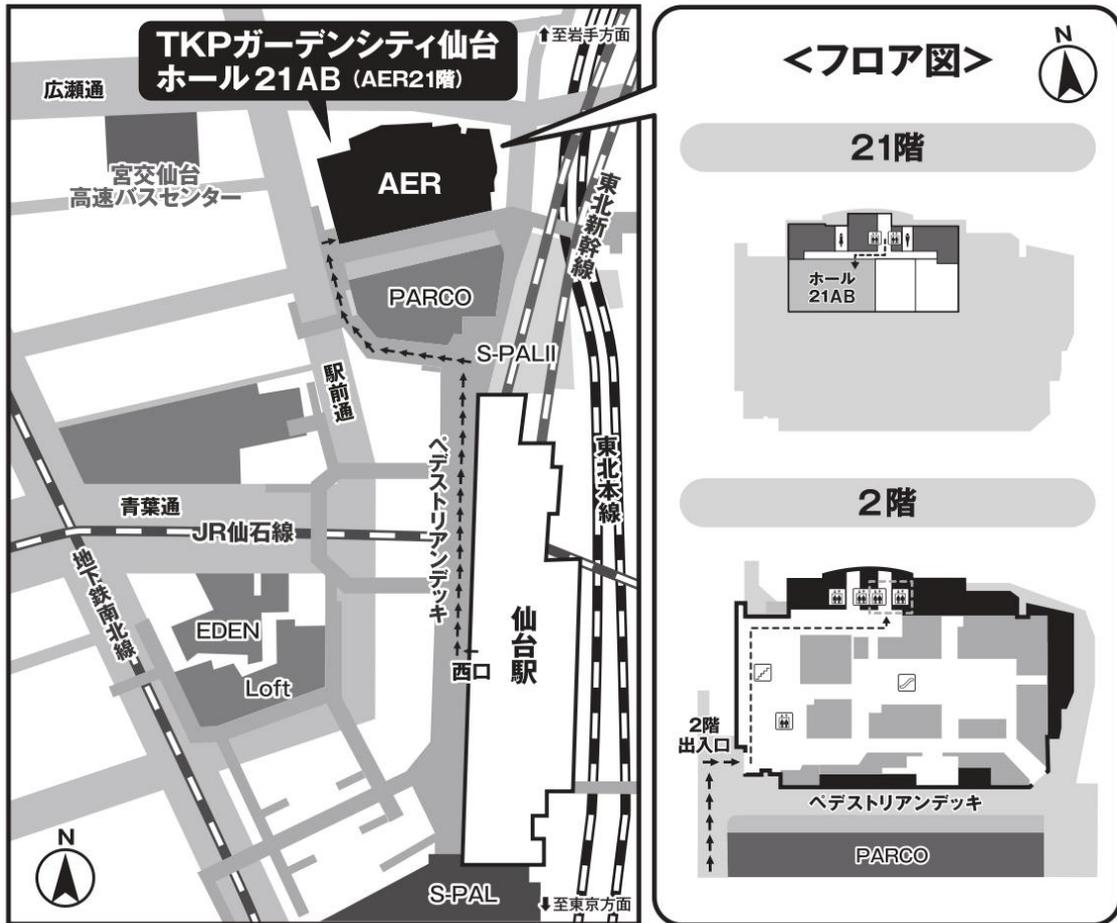
- ・一般演題 発表時間6分 討論時間2分
- ・教育講演 講演時間30分
- ・教育セミナー 講演時間55分

口演中は緑色ランプが点灯、1分前に黄色ランプ、終了時に赤色ランプが点灯しますので時間を厳守してください。

●下記項目について、ご注意ください

- ・担当セッション開始の15分前までに会場へお越しいただき受付を行ってください。
- ・担当セッション開始の10分前までに会場内次座長席にお座りください。
- ・セッション時間は厳守となります。時間内に終了できるようご協力をお願いいたします。
- ・単位が必要な方は参加登録をお願い致します。

会場案内図



会場

TKPガーデンシティ仙台 ホール21AB(AER21階)

〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央1-3-1 TEL:022-714-8101

◎仙台駅より徒歩約3分

仙台駅2階西口を出て、ペDESTリアンデッキを北方面に進み、
AER2階出入口より入り、
高層階用エレベーターをご利用になり21階へお越しください。
PARCO北隣のビルです。

●会場へのアクセス●



《電車でお越しの方》

JR 東北本線 仙台駅西口 徒歩 3 分

仙台市地下鉄南北線 仙台（地下鉄）駅 北 8 出口 徒歩 3 分

《お車でお越しの方》

専用駐車場はございません。近隣のコインパーキング等をご利用ください。

《経路案内》

JR 仙台駅西口「2F 出口 2-4（西口方面）」出入口より ベドストリアンデッキへ出て仙台パルコ方面へ。（※P A R C O 北隣のビルです）

AER2 階出入口より入り直進。出入口手前を右折し館内へ。

左手奥の高層階用エレベーターで 21 階へお越してください。

会場

TKP ガーデンシティ仙台 ホール 2 1 A B（A E R 2 1 階）

〒980-6130

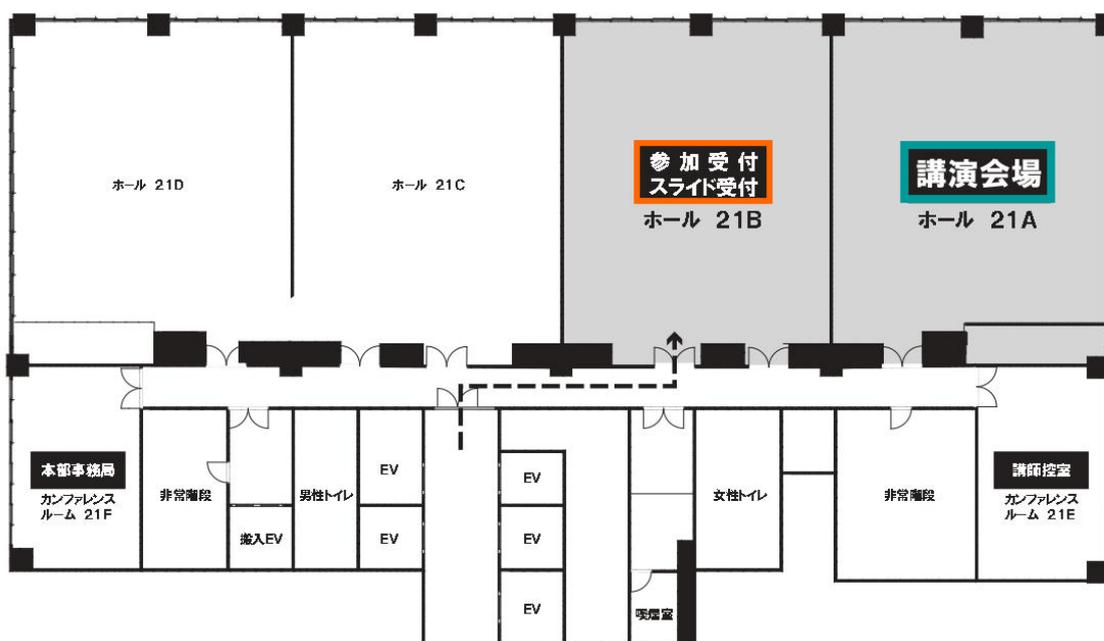
宮城県仙台市青葉区中央 1-3-1

TEL：022-208-7515

[> アクセス情報はこちら](#)

●フロア図●

TKPガーデンシティ仙台（AER21階）



- ホール21A：講演会場
- ホール21B：参加受付・スライド受付
- カンファレンスルーム21E：講師控室
- カンファレンスルーム21F：本部事務局

参加者へのご案内

■会期

日 時) 2024年11月24日(日) 9時00分～16時30分

会 場) TKPガーデンシティ仙台 AER21階 ホール21A

〒980-6130 宮城県仙台市青葉区中央1-3-1

※本会は実会場開催のみです。(ハイブリッドでは行いません)

■感染症対策に関するお願い

- ・当日、体調の悪い方は参加をご遠慮ください。
- ・会場内では可能な限り、マスク着用をお願いいたします。
- ・手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行、3密の回避（特に参加受付周辺、会場内、パブリックスペース）についてご協力をお願いいたします。

■参加受付

受付場所) TKPガーデンシティ仙台 ホール21B

受付開始時間) 8時30分～

スライド受付) 発表時刻の30分前までに受付にお越しくください

座長受付) 担当セッション開始の15分前までに受付にお越しくください

■参加登録について

当日会場受付にてお願いいたします。※事前参加登録はありません。

【参加費】 会員：1,000円、非会員：2,000円

▽初期研修医、学生無料。(大学院生は参加費をお支払いください)

▽お支払いは**現金のみ**です。

※1：学生証または証明書をご提示ください

※2：釣銭が出ないようにご用意ください

■参加証・領収書について

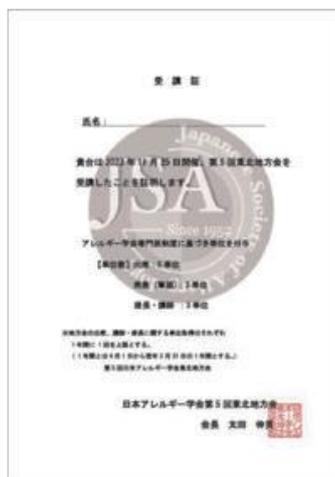
当日、参加登録および参加費をお支払いいただいた際にお渡しいたします。

■認定更新単位登録と取得できる単位数について

会場受付にて参加受講証をお受け取りください。

受講証を各申請機関へ提出し、

各自で単位登録の手続きをお願いいたします。



【取得できる単位数について】

1) アレルギー学会専門医

▽発表（筆頭）、座長・講師：**3単位**

▽出席：**5単位**

（郵送・問い合わせ先）

〒100-0005 東京都台東区上野1-13-3 MYビル4階

一般社団法人 日本アレルギー学会

TEL：03-5807-1701 FAX：03-5807-1702

E-mail：info@jawsweb.jp（※送付の際は「at」を@にして送付ください）

※受け取った受講証をアレルギー学会本部へ郵送をお願いいたします。

2) 日本小児臨床アレルギー学会認定 小児アレルギーエドゥケーター単位

▽参加：**5単位**

※日本小児臨床アレルギー学会へ参加証をご提出ください。

地方会主催のものは年（2024年1月～12月まで）に1回のみ可能です。

（問い合わせ先）

〒183-0023 東京都府中市宮町1-24-8 キャッスル町田202

一般社団法人 日本小児臨床アレルギー学会 事務局

TEL：042-370-1797 FAX：050-3153-0675

E-mail：info@jspca.jp（※送付の際は「at」を@にして送付ください）

3) 宮城県栄養士会 生涯教育制度

▽参加：**2単位**

（問い合わせ先）

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉3丁目3-16

公益社団法人 宮城県栄養士会 研修部

TEL：022-265-8007 FAX：022-261-5912

E-mail：my-eiyou@juno.ocn.ne.jp

（※送付の際は「at」を@にして送付ください）

※宮城県栄養士会へ参加証をご提出ください。

生涯教育自己研鑽単位として参加証の写しで2単位認定、または生涯教育単位に振替申請が可能です。

第6回日本アレルギー学会東北地方会日程表（ホール21A・B）

時間	プログラム	座長	演者
8:30	【開場】TKP ガーデンシティ仙台	ホール21B:受付、ホール21A:会場	
9:00	開会の辞	植木重治（秋田大学）	
9:05	<教育セミナー1> 重症喘息治療 Up-to-date	中山 勝敏 （秋田大学）	永田 真 （埼玉医科大学）
	主催：サノフィ株式会社（※Web 講演）		
10:00	<教育講演 I > 最近の小児科診療から	三浦 克志 （宮城県立こども病院）	佐々木 美香 （盛岡医療センター）
10:30	休憩		
10:35	<一般演題 I >	小荒井 晃（仙台市立病院） 斎藤 純平（福島県立医科大学）	
11:25	<一般演題 II >	森川 みき（森川小児科アレルギー科クリニック） 北沢 博（東北医科薬科大学）	
12:15	休憩		
12:20	東北支部 新支部長挨拶	中山 勝敏（秋田大学）	
12:25	<教育セミナー2> 重症喘息の治療を変える ー抗 TSLP 抗体の意義ー	杉浦 久敏 （東北大学）	中尾 篤人 （山梨大学）
	主催：アストラゼネカ株式会社		
13:20	休憩		
13:25	<教育講演 II > 明日から使える アレルギー性鼻炎診療のコツ	松原 篤 （弘前大学）	鈴木 祐輔 （山形大学）
13:55	<一般演題 III >	中村 豊（東北医科薬科大学） 藤野 直也（東北大学）	
14:45	休憩		
14:50	<教育セミナー3> 重症喘息治療における Mepolizumab についての update	川田 一郎 （岩手医科大学）	井上 純人 （山形大学）
	主催：グラクソ・スミスクライン株式会社		
15:45	<教育講演 III > 皮膚・呼吸器疾患と芳香族炭化水 素受容体（arylhydrocarbon receptor）	池田 高治 （東北医科薬科大学）	千葉 貴人 （せんのは皮ふ科・ アレルギークリニック）
16:15	表彰式・閉会の辞	植木 重治（秋田大学）	
16:30	閉会		

プログラム

一般演題

9時00分～9時05分 開会の辞

第6回日本アレルギー学会東北地方会 会長 植木 重治
(秋田大学大学院医学系研究科 総合診療・検査診断学講座 教授)

一般演題 I (10時35分～11時25分)

座長：小荒井 晃 (仙台市立病院 呼吸器内科 部長)
座長：斎藤 純平 (福島県立医科大学 呼吸器内科学講座 講師)

< I - 1 >

ダニ抗原誘発型喘息における性依存的な増悪への循環型記憶 T 細胞の関与

東北医科薬科大学医学部医学教育推進センター¹

東北医科薬科大学病院アレルギーセンター²、岐阜薬科大学免疫生物学³、

岐阜大学大学院連合創薬医療情報研究科⁴、東北医科薬科大学薬学部病態生理学⁵、

東北医科薬科大学薬学部生化学⁶

○宮坂 智充^{1,2}、豊島 かおる¹、田中 宏幸^{3,4}、川上 佳織⁵、関 政幸⁶、

有川 智博¹、宍戸 史¹、佐々木 雅史¹、高柳 元明⁵、大野 勲^{1,2}、中村 豊^{1,2}

< I - 2 >

一般成人集団における末梢血好酸球数分布と関連因子

東北大学大学院 医学系研究科 呼吸器内科学分野¹

東北大学 東北メディカル・メガバンク機構²

○鈴木 眞奈美¹、山田 充啓¹、中谷 直樹²、小暮 真奈²、千葉 一平²、

中谷 久美²、畑中 里衣子²、高瀬 雅仁²、岩崎 史^{1,2}、寶澤 篤²、杉浦 久敏¹

< I -3 >

**環境改善がコントロールに寄与した
アレルギー性気管支肺アスペルギルス症の一例**

福島県立医科大学呼吸器内科学講座¹

- 山田 龍輝¹、鈴木 康仁¹、斎藤 純平¹、力丸 真美¹、冨田 ひかる¹、
渡邊 菜摘¹、東川 隆一¹、佐藤 佑樹¹、二階堂 雄文¹、金沢 賢也¹、
谷野 功典¹、柴田 陽光¹

< I -4 >

IgG4 関連唾液腺炎様の所見を呈した好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の一例

弘前大学医学部附属病院 呼吸器内科、感染症科¹、

弘前大学医学部附属病院 感染制御センター²、

弘前大学医学部附属病院 高度救命救急センター³、

- 三浦 桐子¹、糸賀 正道^{1,2}、秋田 貴博^{1,3}、坂本 博昭¹、白鳥 俊博^{1,3}、
石岡 佳子¹、牧口 友紀¹、田中 寿志¹、當麻 景章¹、田坂 定智¹

< I -5 >

皮膚病理から診断された好酸球性多発血管性肉芽腫症（EGPA）の一例

東北医科薬科大学皮膚科¹

- 菱沼 有紀¹、横山 華英¹、林 昌浩¹、池田 高治¹、川上 民裕¹

< I -6 >

難治性喘息として紹介となった膠原病性濾胞性細気管支炎の一例

青森県立中央病院 呼吸器内科¹

- 千葉 俊介¹、森本 武史¹、三浦 大¹、石戸谷 美奈¹、中鉢 敬¹、
高畑 友莉菜¹、長谷川 幸裕¹

一般演題Ⅱ（11時25分～12時15分）

座長：森川 みき（森川小児科アレルギー科クリニック 院長）

座長：北沢 博（東北医科薬科大学病院 小児科 講師）

<Ⅱ-1>

喘息と COPD のオーバーラップ増悪入院中にチョコ菓子を摂取後 ニッケルアレルギーが発覚した 1 例

秋田厚生医療センター呼吸器内科¹、秋田厚生医療センター皮膚科²

○佐藤 純平¹、福井 伸¹、渋谷 嘉美¹、横山 達也¹、守田 亮¹、高橋 祐子²

<Ⅱ-2>

吸入薬に添加されたエタノールでの過敏症状が疑われた一例

山形大学医学部附属病院第一内科¹

○佐藤 建人¹、中野 寛之¹、根本 貴子¹、西脇 道子¹、五十嵐 朗¹、
井上 純人¹、渡辺 昌文¹

<Ⅱ-3>

当院の食物経口負荷試験でアドレナリン筋肉注射を使用した症例の特徴

宮城県立こども病院 アレルギー科¹

○宮林 広樹¹、安齋 豪人¹、秋 はるか¹、堀野 智史¹、三浦 克志¹

<Ⅱ-4>

クラス2大豆アレルギーによるアナフィラキシーと考えた1例

山形大学医学部附属病院 皮膚科¹、公立置賜総合病院 救急科²

齊藤 亨¹、鈴木 民夫¹、金子 忠弘²

<II-5>

根尖性歯周炎が顔面紅斑の増悪因子と考えられたアトピー性皮膚炎の1例

東北大学皮膚科¹、古川民主病院歯科²

○天貝 まゆ子¹、小澤 麻紀¹、高橋 隼也¹、神林 由美¹、岡 謙太¹、
千葉 倫子¹、金城 賢吾¹、藤村 祥子²、浅野 善英¹

<II-6>

**自閉スペクトラム症を合併する重症アトピー性皮膚炎への
デュピルマブの治療経験**

宮城県立こども病院アレルギー科¹

○安齋 豪人¹、宮林 広樹¹、秋 はるか¹、堀野 智史¹、三浦 克志¹

12時20分～12時25分 日本アレルギー学会東北支部 新支部長挨拶

日本アレルギー学会東北支部 支部長 中山 勝敏

(秋田大学大学院医学系研究科 呼吸器内科学講座 教授)

一般演題Ⅲ (13時55分～14時45分)

座長：中村 豊 (東北医科薬科大学 医学教育推進センター 教授)

座長：藤野 直也 (東北大学病院 呼吸器内科 病院講師)

<Ⅲ-1>

Dupilumab が奏功した木村病の一例と好酸球 ETosis の関与

秋田大学大学院医学系研究科 総合診療・検査診断学講座¹

千葉大学大学院医学研究院 総合医科学²、千葉県こども病院 アレルギー・膠原病科³

○西山 将平¹、井上 祐三朗^{2,3}、伊東 慶介¹、肥塚 慶之助¹、藤岡 優樹¹、
守時 由起¹、植木 重治¹

<Ⅲ-2>

肺扁平上皮癌に対してニボルマブを使用後に好酸球性大腸炎、 薬剤性肺炎を発症した一例

岩手医科大学附属病院内科学講座呼吸器内科分野¹

岩手医科大学附属病院内科学講座消化器内科分野²、岩手医科大学附属病院病理診断科³

○片桐 紘¹、藤本 亜美¹、大浦 慎之介¹、菖蒲澤 大樹¹、八鍬 一博¹、
堀井 洋祐¹、内海 裕¹、秋山 真親¹、梁井 俊一²、松本 主之²、伊藤 一洋³、柳川
直樹³、川田 一郎¹

<Ⅲ-3>

免疫チェックポイント阻害薬により発症したと考えられた気管支喘息の一例

秋田大学大学院医学系研究科 呼吸器内科学講座¹、秋田赤十字病院 呼吸器内科²、

能代厚生医療センター 呼吸器内科³、

○高橋 大地^{1,2}、奥田 佑道¹、御所野 麗菜¹、工藤 健太郎¹、島田 健吾^{1,3}、
五島 哲^{1,2}、佐々木 奈保^{1,3}、滝田 友里¹、泉谷 有可¹、坂本 祥¹、
浅野 真理子¹、竹田 正秀¹、佐藤 一洋¹、中山 勝敏¹

<Ⅲ-4>

副鼻腔炎に対するデュピルマブの適切な投与間隔について

弘前大学医学部/耳鼻咽喉科・頭頸部外科¹

○高畑 淳子¹、野村 彩美¹、松原 篤¹

<Ⅲ-5>

気道粘膜局所の P2X3 受容体発現レベルの検討

秋田大学医学部 耳鼻咽喉科頭頸部外科¹

○山田 武千代¹、椎名 和弘¹、田口 雪枝¹、加谷 悠¹、安部 友恵¹、
山田 俊樹¹、宮部 結¹

16時15分～16時30分 表彰式・閉会の辞

第6回日本アレルギー学会東北地方会 会長 植木 重治

(秋田大学大学院医学系研究科 総合診療・検査診断学講座 教授)

教育講演Ⅰ（10時00分～10時30分）

座長：三浦 克志 先生
宮城県立こども病院 アレルギー科 科長

「最近の小児科診療から」

演者：佐々木 美香 先生
国立病院機構 盛岡医療センター 統括診療部長

教育講演Ⅱ（13時25分～13時55分）

座長：松原 篤 先生
弘前大学大学院医学系研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 教授

「明日から使えるアレルギー性鼻炎診療のコツ」

演者：鈴木 祐輔 先生
山形大学医学部 耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座 講師

教育講演Ⅲ（15時45分～16時15分）

座長：池田 高治 先生
東北医科薬科大学医学部 皮膚科学 准教授

「皮膚・呼吸器疾患と芳香族炭化水素受容体
(arylhydrocarbon receptor)」

演者：千葉 貴人 先生
せんのは皮ふ科・アレルギークリニック 院長

教育セミナー 1 (9時05分~10時00分)

【共催：サノフィ株式会社】Web講演

座長：中山 勝敏 先生
秋田大学大学院医学系研究科 呼吸器内科学講座 教授

「重症喘息治療 Up-to-date」

演者：永田 真 先生
埼玉医科大学 呼吸器内科 教授
埼玉医科大学病院 アレルギーセンター長

教育セミナー 2 (12時25分~13時20分)

【共催：アストラゼネカ株式会社】

座長：杉浦 久敏 先生
東北大学大学院医学系研究科 内科病態学講座 呼吸器内科学分野 教授

「重症喘息の治療を変えるー抗 TSLP 抗体の意義ー」

演者：中尾 篤人 先生
山梨大学医学部 免疫学講座 教授

教育セミナー 3 (14時50分~15時45分)

【共催：グラクソ・スミスクライン株式会社】

keynote speech 「重症喘息治療の現状と今後の展望」

演者：川田 一郎 先生
岩手医科大学内科学講座 呼吸器内科分野 教授

「重症喘息治療における

Mepolizumab についての update」

演者：井上 純人 先生
山形大学医学部附属病院 第一内科 病院教授

抄録集

一般演題 I

座長：小荒井 晃（仙台市立病院 呼吸器内科 部長）

座長：斎藤 純平（福島県立医科大学 呼吸器内科学講座 講師）

< I -1 >

ダニ抗原誘発型喘息における性依存的な増悪への循環型記憶 T 細胞の関与

東北医科薬科大学医学部医学教育推進センター¹

東北医科薬科大学病院アレルギーセンター²、岐阜薬科大学免疫生物学³、

岐阜大学大学院連合創薬医療情報研究科⁴、東北医科薬科大学薬学部病態生理学⁵、

東北医科薬科大学薬学部生化学⁶

○宮坂 智充^{1,2}、豊島 かおる¹、田中 宏幸^{3,4}、川上 佳織⁵、関 政幸⁶、

有川 智博¹、宍戸 史¹、佐々木 雅史¹、高柳 元明⁵、大野 勲^{1,2}、中村 豊^{1,2}

成人女性の喘息重症化機序を解明するために、ダニ抗原誘発型喘息増悪モデルマウスを用いて記憶 T 細胞の関与を解析した。オスに比しメスではアレルギー性気道炎症が促進し、肺内 ST2+ 記憶 Th 細胞数が増加していた一方で、抗原曝露時の抗 ST2 抗体の投与や増悪前の S1P 受容体アゴニストの投与は気道炎症の性差を消失させた。本結果から循環型 ST2+ 記憶 Th 細胞の増加が女性の喘息増悪に関与している可能性が示唆された。

< I -2 >

一般成人集団における末梢血好酸球数分布と関連因子

東北大学大学院 医学系研究科 呼吸器内科学分野¹

東北大学 東北メディカル・メガバンク機構²

○鈴木 眞奈美¹、山田 充啓¹、中谷 直樹²、小暮 真奈²、千葉 一平²、

中谷 久美²、畑中 里衣子²、高瀬 雅仁²、岩崎 史^{1,2}、寶澤 篤²、杉浦 久敏¹

末梢血好酸球数は喘息診療における重要な指標である。よって健常者集団における好酸球数分布を把握することは有用と考えられる。今回、我々は地域住民健康査データ(n=13,931)を解析した。好酸球数高値(75 %ile:179/ μ L 以上)と喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎などの因子が関連していた。関連因子を持たない成人集団における好酸球数分布(中央値[5-95 %ile])は、82 [12-290]/ μ L であり、汎用されている基準範囲よりも低いことが判明した。

< I -3 >

環境改善がコントロールに寄与した アレルギー性気管支肺アスペルギルス症の一例

福島県立医科大学呼吸器内科学講座¹

○山田 龍輝¹、鈴木 康仁¹、斎藤 純平¹、力丸 真美¹、冨田 ひかる¹、
渡邊 菜摘¹、東川 隆一¹、佐藤 佑樹¹、二階堂 雄文¹、金沢 賢也¹、
谷野 功典¹、柴田 陽光¹

症例は72歳女性。近医で喘息と診断され加療されるも改善せず、精査加療目的に当科紹介。気管支鏡を含む精査にてアレルギー性気管支肺アスペルギルス症と診断した。ICS/LABA, OCS, ITCZによる治療とともに自宅の環境調査も行ったところ、長期使用のベッド周囲に真菌を検出した。ベッド交換と寝室移動を行うことでOCS、ITCZ投与を中止してもコントロール良好となった。環境要因の回避が重要であることを改めて認識させられた症例であり報告する。

< I -4 >

IgG4 関連唾液腺炎様の所見を呈した好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の一例

弘前大学医学部附属病院 呼吸器内科、感染症科¹、

弘前大学医学部附属病院 感染制御センター²、

弘前大学医学部附属病院 高度救命救急センター³、

○三浦 桐子¹、糸賀 正道^{1,2}、秋田 貴博^{1,3}、坂本 博昭¹、白鳥 俊博^{1,3}、
石岡 佳子¹、牧口 友紀¹、田中 寿志¹、當麻 景章¹、田坂 定智¹

52歳男性。47歳時唾液腺腫大を認め免疫内科でIgG4関連唾液腺炎と診断された。同時期から当科で喘息加療を始めた。その後、喘息増悪だけではなく体重減少などの新規症状を認め、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症(EGPA)の診断となった。振り返って本症例を検討すると、唾液腺に関してはIgG4関連疾患様の病態が併存したものと考えられた。EGPAとIgG4関連疾患様病態の併存について文献的考察を含め報告する。

< I -5 >

皮膚病理から診断された好酸球性多発血管性肉芽腫症（EGPA）の一例

東北医科薬科大学皮膚科¹

○菱沼 有紀¹、横山 華英¹、林 昌浩¹、池田 高治¹、川上 民裕¹

35歳女性。初診2週前から皮疹。近医にてプレドニゾン10mg/日を5日間投与されたが改善せず。好酸球数正常，ANCA陰性。初診時，両下肢に palpable purpura が顕著。歩行困難と関節痛あり。皮膚生検で白血球破碎性血管炎と好酸球浸潤を認める。問診で気管支喘息を確認。下肢は多発性単神経炎の症状あり。以上から EGPA と診断し、入院にてプレドニゾン30mg/日、免疫抑制薬を開始，追ってメポリズマブ、免疫グロブリン静注療法を併用し、改善した。

< I -6 >

難治性喘息として紹介となった膠原病性濾胞性細気管支炎の一例

青森県立中央病院 呼吸器内科¹

○千葉 俊介¹、森本 武史¹、三浦 大¹、石戸谷 美奈¹、中鉢 敬¹、
高畑 友莉菜¹、長谷川 幸裕¹

症例は66歳女性。5年前から気管支喘息で加療されていたが、症状悪化し治療強化も効果なく当科紹介となった。呼気時喘鳴認め難治性喘息疑いで精査し胸部CTで細気管支炎、粘液栓像などを認めた。抗SS-A/B抗体陽性であったことから他疾患除外のため気管支鏡検査施行し、生検で濾胞性細気管支炎像を確認した。後の精査でシェーグレン症候群と診断しプレドニゾン+タクロリムスで治療介入している。考察を加えて報告する。

一般演題 II

座長：森川 みき（森川小児科アレルギー科クリニック 院長）

座長：北沢 博（東北医科薬科大学病院 小児科 講師）

<II-1>

喘息と COPD のオーバーラップ増悪入院中にチョコ菓子を摂取後 ニッケルアレルギーが発覚した 1 例

秋田厚生医療センター呼吸器内科¹、秋田厚生医療センター皮膚科²

○佐藤 純平¹、福井 伸¹、渋谷 嘉美¹、横山 達也¹、守田 亮¹、高橋 祐子²

58 歳男性が A 病院から呼吸不全を伴う喘息増悪と診断され当院へ搬送された。好酸球増多があり体幹に紅斑が広がっていた。吸入療法とステロイド投与を行い呼吸器症状は改善した。紅斑も消退しつつあったが、再び増強した。問診から金属アレルギーが疑われ、入院後にチョコ菓子を食べたことが判明、パッチテストの結果からニッケルアレルギーの診断を得た。チョコ菓子に含まれるニッケルの摂取により紅斑が悪化したものと考察した。

<II-2>

吸入薬に添加されたエタノールでの過敏症状が疑われた一例

山形大学医学部附属病院第一内科¹

○佐藤 建人¹、中野 寛之¹、根本 貴子¹、西脇 道子¹、五十嵐 朗¹、
井上 純人¹、渡辺 昌文¹

症例は 70 歳代男性。アルコール消毒で皮膚が発赤することがあった。COPD、慢性呼吸不全で加療中であったが、呼吸困難が生じやすく、短時間作用型気管支拡張薬の吸入を頓用していた。メプチンエアー®を吸入した際に、顔のほてり、動悸を自覚した。添加物のエタノールでの過敏症状が疑われたため、エタノール無添加のメプチンスイングヘラー®に変更としたところ、同症状はみられなかった。

<Ⅱ-3>

当院の食物経口負荷試験でアドレナリン筋肉注射を使用した症例の特徴

宮城県立こども病院 アレルギー科¹

○宮林 広樹¹、安齋 豪人¹、秋 はるか¹、堀野 智史¹、三浦 克志¹

アナフィラキシー(An)の重症度は幅広く、アドレナリン筋肉注射(Ad)を使用しない場合もある。当院で2012-2019年に食物経口負荷試験でAdを用いた重症Anと考えられた39例の特徴を検討した。抗原別で、Ad使用数/使用頻度は鶏卵/ナッツ類で最も多かった。Ad使用判断の主な症状は全体で呼吸器症状が多いが、抗原による傾向の違いがあった。症状出現からAd使用までの時間は鶏卵・ピーナッツで遅い傾向にあった。39例のうち4例はその後に寛解した。

<Ⅱ-4>

クラス2大豆アレルギーによるアナフィラキシーと考えた1例

山形大学医学部附属病院 皮膚科¹、公立置賜総合病院 救急科²

齊藤 亨¹、鈴木 民夫¹、金子 忠弘²

67歳、男性。花粉症の既往あり。過去に豆乳摂取時にアナフィラキシー様症状があったが、これまで豆腐や枝豆などの摂取は問題なかった。夕食に麻婆豆腐丼、ビールなどを摂食後にアナフィラキシーショックで搬送された。血液検査で大豆はクラス0だがハンノキがクラス5、シラカンバがクラス4、Gly m 4が32.6 U/mLだった。プリックテストでは豆乳・豆腐・緑豆もやし生が4+、緑豆もやし加熱が3+であった。

<Ⅱ-5>

根尖性歯周炎が顔面紅斑の増悪因子と考えられたアトピー性皮膚炎の1例

東北大学皮膚科¹、古川民主病院歯科²

○天貝 まゆ子¹、小澤 麻紀¹、高橋 隼也¹、神林 由美¹、岡 謙太¹、
千葉 倫子¹、金城 賢吾¹、藤村 祥子²、浅野 善英¹

37歳、女性。幼少期からアトピー性皮膚炎で加療されていた。5年前から顔面に瘙痒のある紅斑が出現し治療抵抗性のため当科を紹介受診した。接触皮膚炎を疑い化粧品類のパッチテストを施行したが全て陰性だった。当科初診と同時期から根尖性歯周炎に対して根幹治療を開始した。皮疹は徐々に改善し、根幹治療の完了と同時期に略治した。口腔内感染症とアトピー性皮膚炎の関連について、文献的考察を加えて発表する。

<II-6>

自閉スペクトラム症を合併する重症アトピー性皮膚炎への デュピルマブの治療経験

宮城県立こども病院アレルギー科¹

○安齋 豪人¹、宮林 広樹¹、秋 はるか¹、堀野 智史¹、三浦 克志¹

自閉スペクトラム症（自閉症）はアトピー性皮膚炎を合併しやすいと言われており、疾患の特性上スキンケア指導・外用療法のみでは治療に難渋することも多く経験する。今回、感染を契機に掻爬行動と皮膚の状態が増悪した自閉症を合併するアトピー性皮膚炎の5歳男児に対しデュピルマブを導入し、良好な経過を得たため報告する。アトピー性皮膚炎のコントロールは患者のみならず、家族の生活の質向上にも有効であったと考えられた。

一般演題Ⅲ

座長：中村 豊（東北医科薬科大学 医学教育推進センター 教授）

座長：藤野 直也（東北大学病院 呼吸器内科 病院講師）

<Ⅲ-1>

Dupilumab が奏功した木村病の一例と好酸球 ETosis の関与

秋田大学大学院医学系研究科 総合診療・検査診断学講座¹

千葉大学大学院医学研究院 総合医科学²、千葉県こども病院 アレルギー・膠原病科³

○西山 将平¹、井上 祐三朗^{2,3}、伊東 慶介¹、肥塚 慶之助¹、藤岡 優樹¹、
守時 由起¹、植木 重治¹

症例は8歳の男児、左上腕に皮下腫瘍が出現し木村病と診断された。経口ステロイドや dupilumab 投与によって腫瘍は縮小し、末梢血好酸球数と IgE 値も減少した。本症例の組織では活性化した好酸球の特徴的な細胞死である ETosis や、好酸球の有する galectin-10 から構成される Charcot-Leyden 結晶の形成が確認された。また、血清中の galectin-10 は高値を示し、血清によって健常人由来の好酸球を刺激したところ ETosis が誘導された。以上より、病態に2型炎症と好酸球 ETosis の関与が示唆された。

<Ⅲ-2>

肺扁平上皮癌に対してニボルマブを使用後に好酸球性大腸炎、 薬剤性肺炎を発症した一例

岩手医科大学附属病院内科学講座呼吸器内科分野¹

岩手医科大学附属病院内科学講座消化器内科分野²、岩手医科大学附属病院病理診断科³

○片桐 紘¹、藤本 亜美¹、大浦 慎之介¹、菖蒲澤 大樹¹、八楯 一博¹、
堀井 洋祐¹、内海 裕¹、秋山 真親¹、梁井 俊一²、松本 主之²、伊藤 一洋³、柳川
直樹³、川田 一郎¹

症例は70歳男性。X年6月に肺扁平上皮癌に対してニボルマブを開始して3ヶ月後に下痢が出現した。内視鏡検査で上行結腸の粘膜は粗造であり、好酸球は53個/HPFsであった。好酸球性大腸炎と診断してプレドニゾン開始後に下痢は軽快した。プレドニゾン漸減中に薬剤性肺炎が出現したがプレドニゾン増量により改善傾向であった。抗PD-1抗体で誘発された好酸球性炎症を経験したため、文献的考察を加えて報告する。

<Ⅲ-3>

免疫チェックポイント阻害薬により発症したと考えられた気管支喘息の一例

秋田大学大学院医学系研究科 呼吸器内科学講座¹、秋田赤十字病院 呼吸器内科²、
能代厚生医療センター 呼吸器内科³、

○高橋 大地^{1,2}、奥田 佑道¹、御所野 麗菜¹、工藤 健太郎¹、島田 健吾^{1,3}、
五島 哲^{1,2}、佐々木 奈保^{1,3}、滝田 友里¹、泉谷 有可¹、坂本 祥¹、
浅野 真理子¹、竹田 正秀¹、佐藤 一洋¹、中山 勝敏¹

【症例】73歳、女性【既往歴】ピリン系アレルギーあり、気管支喘息なし【現病歴】肺癌に対して免疫チェックポイント阻害薬による治療を開始。16コース終了後から咳嗽症状が出現。両肺野で wheeze を聴取し、血液検査では好酸球増多、呼気 NO 濃度上昇、気道壁肥厚も認めため、気管支喘息と診断した。【考察】免疫チェックポイント阻害薬により気管支喘息を発症したと考えられた1例を経験したので、文献を交えて考察する。

<Ⅲ-4>

副鼻腔炎に対するデュピルマブの適切な投与間隔について

弘前大学医学部/耳鼻咽喉科・頭頸部外科¹

○高畑 淳子¹、野村 彩美¹、松原 篤¹

デュピルマブは難治性副鼻腔炎に著効する薬剤であるが、その適切な投与間隔についてはまだ十分なコンセンサスは得られていない。投与間隔の延長後に経過良好、経過不良な群にわけて比較検討を行った。2020年～2023年に当科でデュピルマブを投与した症例27例を対象とした。27例中18例で4週に1回の投与に変更、18例中12例で経過良好、6例で経過不良であった。経過良好群では抗アレルギー薬の併用が不要になる症例が多かった。

<Ⅲ-5>

気道粘膜局所の P2X3 受容体発現レベルの検討

秋田大学医学部 耳鼻咽喉科頭頸部外科¹

○山田 武千代¹、椎名 和弘¹、田口 雪枝¹、加谷 悠¹、安部 友恵¹、
山田 俊樹¹、宮部 結¹

治療抵抗性の慢性咳嗽に対して選択的 P2X3 受容体拮抗薬が治療薬として登場し、気管支喘息や難治性鼻副鼻腔炎において咳嗽の VAS スコアが高いことから気道粘膜における P2X3 受容体発現レベルを検討した。鼻粘膜組織中の P2X3 受容体の発現定量を初めて証明し、種々のアレルギー関連分子レベルと相関した。P2X3 受容体拮抗薬を使用時にどのような患者に受容体が多く発現しているかを検討するためこの研究を行っている。

第6回日本アレルギー学会東北地方会 教育セミナー1

日時：2024年11月24日(日)9:05～10:00

会場：TKPガーデンシティ仙台(仙台駅前AER21F)
宮城県仙台市青葉区中央1丁目3

➤ 座長

秋田大学大学院医学系研究科

呼吸器内科学講座

教授 中山 勝敏 先生

➤ 講演

『重症喘息治療 Up-to-date』

埼玉医科大学 呼吸器内科 教授

埼玉医科大学病院 アレルギーセンター

センター長 永田 真 先生

共催：日本アレルギー学会東北地方会
サノフィ株式会社
リジェネロン・ジャパン株式会社

第6回日本アレルギー学会東北地方会

教育セミナー2

日時 2024年11月24日(日) 12:25~13:20

会場 TKPガーデンシティ仙台 AER21階(ホール21A)
〒980-6130 宮城県仙台市青葉区中央 1-3-1

重症喘息の治療を変える —抗TSLP抗体の意義—

座長

杉浦 久敏 先生

東北大学大学院医学系研究科 内科病態学講座
呼吸器内科学分野 教授

演者

中尾 篤人 先生

山梨大学医学部 免疫学講座 教授

本会の実会場での開催となっております。
詳細は本会WEBサイト (<http://tohoku-kyoritz.jp/allergy6/>) をご確認ください。

第6回日本アレルギー学会東北地方会 教育セミナー3

日時

2024年**11**月**24**日（日）
14:50～15:45

会場

TKPガーデンシティ仙台 ホール21A

開催概要

重症喘息治療の現状と今後の展望

司会

川田 一郎 先生

岩手医科大学内科学講座 呼吸器内科分野 教授

14:50～15:00

重症喘息治療における Mepolizumabについてのupdate

演者

井上 純人 先生

山形大学医学部附属病院 第一内科 病院教授

15:00～15:45

協賛企業名、各社御芳名

この度の第6回日本アレルギー学会東北地方会開催にあたり、下記の企業、団体の皆さまから協賛金、広告掲載等のご支援を承りました。この場をお借りしまして心より御礼申し上げます。

● 共 催 ●

アストラゼネカ株式会社

グラクソ・スミスクライン株式会社

サノフィ株式会社

● 広 告 ●

アツヴィ合同会社

株式会社南部医理科 秋田営業所

チェスト株式会社 仙台営業所

東北化学薬品株式会社

(50音順)

お客様の声をカタチにして、
モストグラフ®が待望のアップデート！
3Dカラーグラフィックの見やすさと、
使いやすさを追求しました。

総合呼吸抵抗測定装置

MostGraph®-03

- 23インチワイド液晶モニターで3Dカラーグラフィック波形や数値を表示
- 2Dカラーグラフ、3Dカラーグラフィックを組み合わせた7パターンの画面表示
- 測定値の時系列グラフ、3Dカラーグラフィックの時系列表示・印刷*
- 小児測定に対応した3Dカラーグラフィックのキッズスケール
- キャリブレーションチェック履歴表示、精度管理レポート印刷*
- 測定補助アニメーションなどを採用したスパイロメトリ機能(オプション)

*印刷をするにはオプションのプリンタセットが必要です。



先進の医療機器で健やかな呼吸をサポート

本社/〒113-0033 東京都文京区本郷3-25-11

TEL.(03) 3813-7200(代)

仙台営業所/〒984-0013 宮城県仙台市若林区六丁の目南町4-50

TEL.(022) 385-6411(代)

CHEST チェスト株式会社

ホームページ <https://www.chest-mi.co.jp>

営業所 / 札幌・秋田・仙台・新潟・さいたま・東京・西東京・横浜・名古屋・金沢・大阪・広島・松山・福岡・大分



「医療」を支える 「人」を支える

私たち南部医理科は、各種医療商材とサービスの供給を通して、
医療を支える方々をサポートしています。

株式会社
南部医理科 NANBU-IRIKA CO.LTD



- | | | | | |
|---------|-------------------------------|-------------------|-------------------|--------------------------|
| ■ 本社 | 〒028-3601 岩手県紫波郡矢巾町高田 10-78-1 | TEL: 019-697-3264 | FAX: 019-697-3519 | h-office@nanbu-irika.com |
| ■ 仙台支店 | 〒981-8003 宮城県仙台市泉区南光台 4-28-15 | TEL: 022-797-3337 | FAX: 022-718-9880 | s-office@nanbu-irika.com |
| ■ 秋田営業所 | 〒010-0851 秋田県秋田市手形字十七流 181-3 | TEL: 018-832-1514 | FAX: 018-832-1373 | a-office@nanbu-irika.com |
| ■ 弘前営業所 | 〒036-8086 青森県弘前市大字田園 1-9-6 | TEL: 0172-26-3003 | FAX: 0172-26-4028 | hi-offic@nanbu-irika.com |
| ■ 八戸営業所 | 〒039-1166 青森県八戸市根城 8-10-8 | TEL: 0178-45-2254 | FAX: 0178-45-2329 | ha-offic@nanbu-irika.com |
| ■ 山形営業所 | 〒990-2332 山形県山形市飯田 3-2-9 | TEL: 023-625-5446 | FAX: 023-625-5447 | y-office@nanbu-irika.com |
| ■ 郡山営業所 | 〒963-8052 福島県郡山市八山田 5-15 | TEL: 024-931-5833 | FAX: 024-931-5866 | k-office@nanbu-irika.com |



ヤヌスキナーゼ (JAK) 阻害剤

リンヴォック錠 30 mg / 15 mg

ウパダシチニブ水和物錠 RINVOQ[®]

劇薬 処方箋医薬品[※] (注) 注意-医師等の処方箋により使用すること

● 効能又は効果、用法及び用量、警告・禁忌を含む注意事項等情報等については電子化された添付文書(電子添文)を参照してください。

製造販売元
アッヴィ合同会社 (文献請求先及び問い合わせ先)
 東京都港区芝浦3-1-21 くすり相談室
 フリーダイヤル 0120-587-874

2023年12月作成
 JP-RNQD-210010-6.0

abbvie



東北化学薬品株式会社
 TOHOKU CHEMICAL CO., LTD.

私たちは最先端医療、現代医学、科学技術の
 振興を支えるパートナーとして共に歩んでまいります。

インダストリー メディカル アカデミア 受託解析・プログラム研究開発

弘前本社
 TEL:0172-33-8131 FAX:0172-33-6800

仙台支店
 TEL:022-345-4870 FAX:022-345-4495

盛岡営業所
 TEL:019-601-7533 FAX:019-645-8911

八戸支店
 TEL:0178-43-9236 FAX:0178-44-7629

山形支店
 TEL:0237-47-0068 FAX:0237-47-0285

鶴岡営業所
 TEL:0235-24-9786 FAX:0235-24-9875

青森支店
 TEL:017-738-4451 FAX:017-738-0278

東京支店
 TEL:03-3866-9777 FAX:03-3866-9735

米沢営業所
 TEL:0238-24-7622 FAX:0238-24-7667

秋田支店
 TEL:018-824-1201 FAX:018-824-1166

むつ小川原営業所
 TEL:0175-73-2271 FAX:0175-73-2272

福島営業所
 TEL:024-597-8102 FAX:024-597-8103

岩手支店
 TEL:0197-68-2271 FAX:0197-68-2440

大館営業所
 TEL:0186-45-0566 FAX:0186-45-0570

受託解析・プログラム研究開発グループ
 TEL:019-601-7534 FAX:019-645-8911